

注意点1

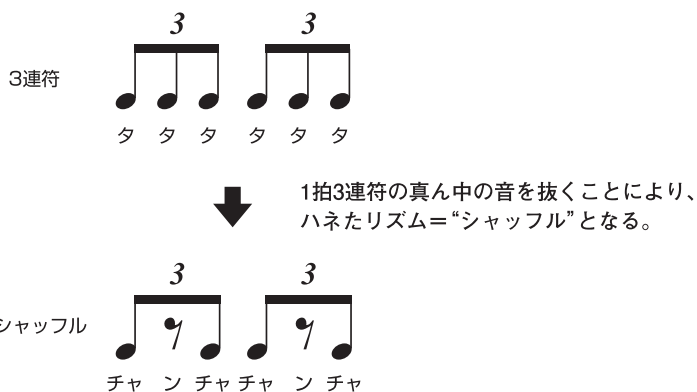


理論

**ハネたフィーリングを持つ
シャッフルを覚えよう!**

ここでは、1拍3連符の真ん中の音を抜いた“シャッフル”というリズムを練習しよう(図1)。ブルースでよく使われるが、実は日本の阿波踊りの“チャンチャチャンチャ、チャンチャチャンチャ……”というリズムもシャッフルになるのだ。初心者はリズムが取りづらいので、まずは通常の3連符のリズムを“シブヤ、シブヤ……”などと歌いながら身体に覚え込ませてほしい。そのあとに、松竹梅フレーズを弾いて、ハネたビートに慣れよう。ちなみに、シャッフルや16ビートのようなスウィング感【註】のあるビートは、“ハネる”や“ハネ系”“ハネ物”などと呼ぶことが多い。

図1 シャッフルについて



注意点2

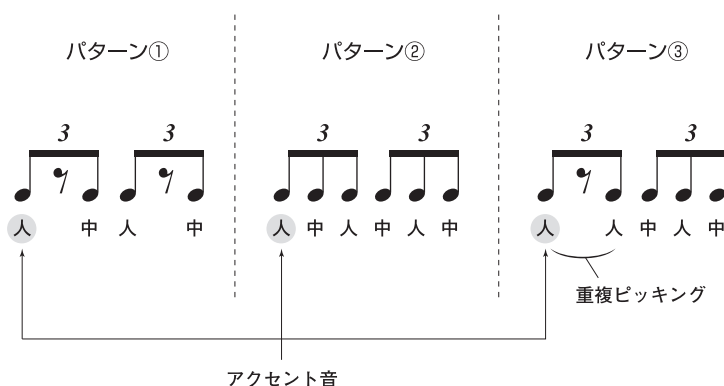


右手

**音数に合わせて
右手の指順を変えるべし!**

シャッフルのリズム・パターンは3つある(図2)。1つ目が1拍3連符の真ん中の音を抜いたオーソドックスなパターンで、2つ目が3連符を弾き続けるパターン。そして、3つ目は1拍目がシャッフル、2拍目が3連符という2拍で1つの区切りとなるパターンだ。シャッフルをノリ良く弾くためには、右手によるアクセント付けが大切になる。1つ目のパターンは音数が偶数になるため、2フィンガーのオルタネイトで問題ないだろう。2つ目はオルタネイト、3つ目は重複ピッキングを使うと、アクセントを強く指が揃えられる。このように音数に合わせて指順を変えて、グルーヴを生み出してほしい。

図2 シャッフルでの右手の指順



～コラム4～

将軍の戯れ言

ここでは、リズムの上手な取り方をレクチャーしよう。まずは、1拍に入れる音符の音数と同じ文字数の言葉を決めてほしい(図3)。例えば、8分音符は“トダ”、3連符は“シブヤ”、16分音符は“シナガワ”、5連符は“イケブクロ”、6連符は“タカダノババ”となる。あとは、その言葉を歌いながら演奏するのだ。3連符では、4分打ちのクリック音に合わせて“シブヤ、シブヤ、シブヤ、シブヤ……”と、ラッパーのように歌ってみよう。こうすることで、発音タイミングを正確に掴めるはずだ。リズムを正確に取るために、ラッパーに変身して演奏しよう!

**リズムを上手に取りたければ
ラッパーになるべし!?**

図3 リズムに対する言葉のハマ方



【スウィング感】 ジャズの持つ音楽的躍動感を指す言葉。リズムのハネと同じ意味で使われることも多く、曲に合わせて、いかにハネ具合を調整できるかが鍵になる。